



推進員の集い



年公開講演話会



年末お磨き



有縁講



音市場



三条別院お取越報恩講



2025 年後半  
記録写真



発行日 令和八年一月一日 第四六号

# 浄敬寺だより

じょうきようじ



## 【法語】

前々住上人、御法談已後、仰せられ候う。四、五人の御兄弟へ仰せられ候う。「四、五人の衆、寄り合い談合せよ。必ず、五人は五人ながら、意巧にきく物なり。能く能く談合すべき」の由、仰せられ候う。

『蓮如上人御一代記聞書』一二〇

『真宗聖典』第二版一〇五〇 ⑩ 八七七項

## 【意訳と解説】

前々上人（蓮如上人）が御法話をされた後、四々五人の御兄弟（ともに本願念仏の教を聞くお仲間）にお話されました。「四々五人が集まって、寄り合って話し合いをしないさい。必ず、五人は五人それぞれに、自分に都合よく聞いているものです。よくよく、話し合いなさい」と、お話されました。

蓮如上人は御講を通して、沢山の方に布教をされました。

『講』で大事なものは、仏法聴聞した内容をそれぞれが語り合うことでした。長時間に及ぶ聴聞や談合、その場で心を許して語り合うことの助けに、お斎が用意されるようになったのでしよう。

親鸞聖人は、先祖供養のために念仏をしない理由を「一切の有情は世々生々の父母兄弟なり」と言われたと唯円さんは聞き取られ、『歎異抄』の中に記されています。同じ釜の飯をいただきながら、仏法を語りあう関係は最早「兄弟」…ということ、蓮如上人は御門弟や御同行を「御兄弟」と表現されています。

浄敬寺の定例会、『歎異抄をよむ会』の後にも坊守が準備する茶話会があります。寄り合い談合いたしましょう。



## ☆巻頭法話☆

御門徒、有縁の皆様にご挨拶に謹んで新春のお喜びを申し上げます。

廊下に掛けられた新しい日曆の厚さは一年の長さを感じさせますが、年末になって段々薄くなってくる日曆はまた一年の経過の速さを感じさせます。法要などでよく話させていただくことは、日曆一枚一枚には私たちの毎日と同じ重さがあるのではないかということなのです。毎日忘れずにめくっていくということは簡単なようで簡単ではありません。ふと気がつけば何日分もまとめて捨ててしまうような自分がいるのです。命を輝かせながら日々大切に生きていくのかと反省させられます。

毎年十二月には年末法話会ということで、県内の僧侶からおいでいただき、お話を聞きしてきましたが、昨年の年末は、長岡赤十字病院の緩和ケア病棟の佐藤直子医師をお迎えして「自分らしく行きたい 自分らしく逝きたい 素敵な最期の迎え方」という講題でお話を聞きしました。その時の閉会の挨拶でも話させていただいたのですが、お寺でこういうお話を聞く場を持つことには若干抵抗もありましたが、三年前の十一月に私が大学時代から大変お世話になった二歳年上のご住職が骨髄異形症候群

という血液のガンで急逝なさったということがあり、死ということについて改めて考えさせられたこともありまして、そういう病気の専門家でもあられる佐藤医師をお迎えすることとしました。人間は死を免れないということは仏教の教えでもあります。そのような命をいかに自分らしく生き、そして終えていくか、そのためのケアをしていくのが緩和ケアの目的だとお聞きしました。印象に残った言葉に「死向力を高める」ということがありました。「死を迎える過程で自分の大切なものを手放さなければならぬ」ととき 自分にとって本当に大切なものは何かを知ること」「死を考えることはタブーではない 死を考えることで『大切な人・大切なもの・大切な気持ち』を再確認してあらためて大切にしようと思える 死を真剣に見つめることで 自分の本心に気づくことができる」「死を学ぶ 死から学ぶ そしてそこから生を学ぶ」これらの言葉の数々はまさに仏教の死生観に通じることであつて納得させられるものでした。とは言え、日めくりカレンダーさえも毎日めくれない生き方をしている自分を思う時、自分はどうやって人生を終えていけるのだろうかと考えてもしまいます。私たちが毎日お勤めする正信偈の後にいただくの御和讃に「弥陀成仏のかたは いまに十劫をへたまえり法身の光輪きわもなく 世の盲冥をてらすなり」と



あります。仏様は自分のような凡夫でもずっと救い続けてきてくださっている、そして必ず浄土に迎えてくださっている、というお心があるのですが、今更ながら聞法の大切さを痛感させられます。今年も一年、寺がそういう場所であるよう努力して参りますので共に聴聞して参りましょう。

合掌

（住職）



## ☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から  
坊守の所感をお伝えします。



### ◎総代・世話人会について

昨年九月に、住職・坊守と同世代で地域でもご活躍された総代様が命終されました。また、十月には寺の行事や旅行等にも何度か参加してくださった世話人様が命終されました。長年の寺へのご尽力に心より感謝申し上げます。

後任をご承諾いただいたお二人には、春の総代・世話人会議へのご出席をお願いしました。よろしくお願い申し上げます。

### ◎庫裡改修工事について

庫裡改修工事（リノベーション）が終わり、お陰様で大変便利に使わせていただいております。募材三年計画の最後の年になります。年末の公開講演会は七十名程の方からお集りいただきましたが、庫裡を会場に寒さも感じずに開催することができました。



### ◎名工小川由廣さんのライオン像移設について

前号でも紹介しましたが、新潟日報や柏崎日報でも掲載された「ライオン像の移設プロジェクト（クラウドファンディング）」が春口敏栄さんの呼びかけで行われています。制作者の小川由廣さん、ライオン像の所有者だった方、それを相続された方も浄敬寺ご門徒だったという数々のご縁があり、浄敬寺でお受けすることになりました。市内では三番目に大きいライオン像がどのように境内に設置されるのか、お話を聞きながら楽しみにしています。



### ◎寺のお斎

秋彼岸に糸ウリのごま和えを久し振りに作りました。糸ウリは三杯酢や煮付け、漬け物など、精進料理には欠かせない食材です。大根を干し、たくわん漬けも出来ました。台所スタッフの協力をいただきながら、今年も伝統の味を伝えるお斎を作りたいと思っています。



## ☆二〇二五年後半を振り返って

### ◎秋彼岸（お中日・九月二十三日）法話 住職

住職からの法話に続き、勤行、お齋がありました。住職からの法話要旨です。

お正信偈の最初に「帰命無量寿如来」とお勤めしますが、これは無量寿如来に帰命してください、という意味があります。無量とは有量の反対、量ることができない世界のことを言います。私たちは普

段、計らいの世界、即ち量ることが出来る世界で生きています。

これに対して人間の量ることの出来ない世界、阿弥陀の世界に目覚めてください、というのが正信偈の初めに書かれています。彼岸とは、自分の思いでしか生きられない娑婆世界から、自分の思いでは量ることの出来ない仏の願いの世界、浄土の世界に気づかせていただく大切な時間をいただくご縁ではないでしょうか。

お彼岸のお中日は春分の日・秋分の日の日祝いです。十時半からの法話で、お申込みは不要です。ぜひお参りください。

### ◎音市場（十月十九日）

浄敬寺では、サククス三重奏、和太鼓二団体、クラシックピアノの四団体・奏者のステージがありました。毎年秋に開催される音市場は、フリーパスのチケットを購入し、市内十数か所の会場で音楽を楽しむことができます。今から三年半前に還浄された浄敬寺御門徒の石川眞理子さんが大切に關わって来られ、すっかり柏崎に定着したイベントです。運営



に携わっておられる方からもよくお聞きますが、この度演奏に來られた和太鼓のグループの方々は、石川さんに変に大變にお世話になったとのことで、浄敬寺で演奏することの緊張感と感謝を伝えてくださいました。



### ◎三条別院お取り越し報恩講団体参拝（十一月七日）

浄敬寺からは七名の方からお申込みいただき、第十組（市部）にて団体参拝を行いました。午前中のお日中法要を参詣した後、お齋、慶讃法要前の特別企画の『教行信証』坂東本の解説、沙加戸弘先生の御法話をお聞きした後、寺泊の魚の市場経由で帰路につきました。昨年から復活した三条別院伝統のお齋：いかがでしたでしょうか。



### ◎有縁講（十一月十一～十二日）

紅葉と好天の十一月、五名で有縁講に参加させていただきました。途中、柿崎にある浄福寺（本願寺派）様を参拝させていただきました。



親鸞聖人様御染筆の「川越九字名号」で有名な歴史ある御寺院です。その後、居多ヶ浜記念堂を参拝して片葉の葦を探し、赤倉ホテルへ。勤行、ご法話の後温泉に浸かり、一年の疲れを癒しました。翌日はお朝事の勤行とご法話の後、楽しみなりんご狩りと、昼食バイキングで料理研究。秋の一泊二日の旅です。次回は皆様も是非ご参加下さい。

### ◎年末公開講演会（十二月七日） 講師 佐藤直子 医師

「自分らしく生きたい 自分らしく逝きたい」

～素敵な最期の迎え方～

「ガンの診断は、私たちがこれまでいかに生きることが重要か、そんな風に考えていた人生を突如にして死に向かってどのような人生を終えるべきかという思考に変化させる劇的なライフイベントである。」そして「無限に感じられていた人生が、有限なものであったと気づかされる」という衝撃的なお話から始まった講演会でした。ガンは治せる時代になったとは言え、二人に一人がガ



ンになる時代だとも言われます。有限な命をいただいていることを知っていないながらそのことから目をそらして生きている私たちが、どのような人生を送っていくべきなのか。緩和ケアという、普段考えもしない医療分野の話でしたが、終末期においては約七十%の患者で意思決定が不可能になるといわれます。それだけに、緩和ケアは終末期だけに提供されるのではなく、またガン患者だけに限ったものでもなく、早期からの提供されることが自分のためでもあり、自分の大切な人のためでもあるとお聞きしました。患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて患者の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や選考を明確にするプロセスであるアドバンス・ケア・プランニング（ACP 人生会議）という話もありました。

人生の最後にどう在りたいか。だれもが大切なことだと分かっています。なんとなく縁起でもないからという理由で避けているのが私たちです。緩和ケアという医療分野の視点から、私たちがどう生きるのか、どう人生をしめくっていくのか、お話をいただきましたが、仏教の教えをいただく私どもにとっても同様に考えていかなければならない貴重なお話をいただいたことでした。最後に佐藤先生からいただいた資料の中から心に残ったお言葉を照会させていただきます。

### 「死を学ぶ 死から学ぶ」

そしてそこから 生を学ぶ」

### 「死を見つめることは

どう生きるか見つめること」

「人は 生きてきたように 死んでいく」

「最後の時をどう過ごすのか どう生きていきたいのか

大切な人と相談しながら

一日一日を思いっきり 生きてほしい」



（住職・記）

## ◎浄敬寺推進員懇親会（十二月二十日）

コロナウィルス感染症の流行前には、法話会の後に懇親会を設けていましたが、開催が困難な時期を経て、久し振りに食事とアルコールありの懇親会を開催しました。第十期真宗講座が修了し、浄敬寺からも一名の新しい推進員が誕生しましたので、皆さんから自己紹介や感話をいただきました。皆さんのお話をお聞きして、お念仏申すこと、真宗の教えを聞くこと、そしてその場やお仲間を大事に思ってくださいということが伝わり、大変有り難く思いました。

第十組（柏崎刈羽地区）では、三年に一度のペースで真宗講座が開催されます。真宗の教えを基本から聞ける講座ですので、ぜひご受講ください。

## 定例会のご案内

☆おてらヨガ：（ミニ法話×ヨガ）

- ・参加者個人のペースを尊重したゆったりヨガです。
- ・毎月第三または第四月曜日午前十時〜約一時間
- ・参加費 千円
- ・インストラクター 砂長谷真梨子さん
- ・ミニ法話 准坊守

☆定例法話会：『歎異抄』をよむ会（シーズンⅡ）ご案内

昨年は第八章までを解説しました。新年は第九章からのスタートです。途中からのご参加でも一緒に学べます。ご都合に合わせてぜひご参加ください。

・基本的に第二土曜日午前九時より

・内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

（終了後、ささやかな茶話会あり）

・持ち物 赤本・念珠・『歎異抄』のテキスト



# ☆二〇二六年前半の行事予定（参加お申込み不要）

## 一月

一日 修正会勤行 午前六時より本堂にて  
一～二日 年始参

\*真宗門徒の一年は御本尊のお参りから始めましょう

十七日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

一九日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 二月

十四日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

一六日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 三月

七日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十四日（土）第十組同朋会報恩講 於産業文化会館

\*法話 真城 義麿 氏  
ましろ よしまろ

（今治市 善照寺住職・元大谷中学校・高等学校校長）

\*参詣については別途ご案内いたします。合唱団としてご参加いただける方を随時募集しております。

一六日（月）おてらヨガ 午前九時より

十七～二十三日 春彼岸

\*お中日：二十日（金・春分の日）

午前十時半～法話・勤行・お斎

## 四月

十一日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

二十日（月）柏刈同朋の会 法話会

二十七日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 五月

九日（土）報恩講お引き上げ準備会 午後一時より

\*仏具のお磨き・境内清掃 等にご協力ください

十九日（火）報恩講お引き上げ 午前十時より

\*法話 今泉 温資 師（新潟市）  
いまいずみ としし

勤行後おときがあります

二十五日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 六月

十三日（土）『歎異抄』をよむ会 午前九時より

二十日（土）仏教文化講演会 於 アルフォーレ

\*講師 星 貴 氏（長岡戦災資料館アドバイザー）  
ほしたかし

二十二日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 七月

五日（日）夏の法話会 午後一時半～四時頃

\*講師 佐野 明弘 氏  
さの あきひろ

（石川県加賀市光闡坊住持・大谷専修学院院长）

十四・十五日（日・月）盆参会（盆内）午前十時半～

\*法話・勤行後、両日ともおときがあります

二十七日（月）おてらヨガ 午前九時より

## 八月

二日（日）夏休みお楽しみ会（子ども会）午後四時～

十三～十六日（木～日）お盆

\*十三日午前六時～勤行

十七日（月）おてらヨガ 午前九時より

## ☆真宗門徒の豆知識

御命日や仏事の際にお尋ねいただく「ちよつとした疑問」。これは皆さんも気になるのでは?ということがしばしばありますので共有します。



### 【お茶飲み話の質問アルアル】

Q1、『お念珠の紐が切れてしまいました』

A、仏具店に持ち込めば念珠修理をしてもらえます。

男性が主に使われる組み紐のように編むタイプであれば、坊守・准坊守がお直しできますので、お気軽にご相談ください。女性用の房の付いたお念珠は、房の色のご希望をお聞きして念珠店に持ち込みます。二千〜三千円程で古いお念珠も甦りますので、直して使われることもおススメです。

もし、もう使うことはない...というお念珠は、有効に再利用させていただきますので、どうぞお持ちください。



真宗のお荘厳では、お供物やお花について、「お供え」ではなく「お備え」と書きます。自分が買おうが育てようが、それは大地の恩恵です。ですから、私が仏様に対しておそなえするのではなく、仏法の領域の物を「いただく」。これは真宗門徒がずっと大切にしてきた価値観です。そのことをご理解いただき、親鸞聖人や御先祖の御命日から、できる限りお願いします。

Q2、『お花は生花でないといけませんか?』

A、花瓶のようなものが二種類あるかと思っています。

①華瓶(けびょう)と②花瓶(かひん)で、用途が違います。

①華瓶は水用です。

お浄土の世界が清浄であることを表しているのです、きれいな水と密(しきみ)を挿します。密にはその成分から水を腐らせない作用があるそうです。

②花瓶には生花を挿します。



お荘厳が表しているのは、仏教の世界観であり、お釈迦様がはじめて言葉にしてくださいだった真実の教えの内容です。命ある生花はやがて枯れます。そのことが表しているのは、私たちの命が有限であること。そして、そんな有限の私たちにも教えに照らされ、深く感動する瞬間があるということです。

・・・とはいえ、塗りものであるお内仏の小さな花瓶に生花を生けるのは大変というお声も聞きます。豪華に飾る必要はありませんし、季節のお花をお内仏の前に置く等、工夫されてはいいかでしょうか。

Q2、浄土真宗のお寺にはお釈迦様の仏像はいないの?

A、それでは、本堂のお荘厳を確認してみましよう!



中心は真宗の御本尊・阿彌陀如来です。向かって右には親鸞聖人、左には蓮如上人、余間にはお正信偈に出てくる七高僧と聖徳太子、逆の余間には歴代の法名軸。・・・確かにお釈迦様をかたどった仏像はありません。お釈迦様は色も形もない真実について初めて言葉にされた方で、浄土真宗は、宗祖・親鸞聖人が教えてくださった「如来の本願を聞き、念仏申すこと」が中心のお荘厳となっています。

真宗本廟には御影堂門と呼ばれる二層構造の大きな門がありますが、この楼上には真宗の教えの拠り所である大無量寿経の一場面が再現された釈迦三尊像が荘厳されています。敷居や階段のない門をくぐり境内に入ることは、お釈迦様を縁として、一人も漏らさず救う阿彌陀の教えに遇うことを意味します。その教えを聞く御堂は内陣よりも参詣席が広いという、他に類を見ない構造です。



## ☆当院の仏教名言集 第三十九回

### 禅語『梅開早春』

職場の良寛記念館では、よく「良寛の歌の特徴を教えてください」という質問を受けます。

良寛の歌について「和歌と歌謡のどちらに区分するか」という議論もありますが、重要であることは歌の中に仏様の教えが入っていることです。その説明が、なかなか難しいのです。その説明として、よく紹介するのが「梅開早春」という禅語です。

「梅開早春」は「梅（花）、早春を開く」と読みます。私たちは、咲いた梅の花を見みて、春になったことを認識できます。言い換えますと、私たちは、他のいのちの変化を見なければ、実にあいまいに生きているということでもあります。では、そんな私たちに春の訪れを教えてください。梅は、どうして春になったことを知るか？と申しますと、梅は春そのものに呼ばれて花を咲かせるというのです。梅の花は小さないのちです。ですが、その小さないのちが、この世がいのちの繋がりの世界であることを開いているのです。

良寛も一羽の鳥の鳴き声や竹の子が地面から出てきたことなどを歌に取り入れ、この世がいのちの繋がりの世界であることを詠んでいます。良寛の有名な逸話に、床下から生えてきた竹の子を切らなかったお話があります。良寛は、いのちの繋がりを絶ちたく無いと思ったからこそ、竹の子を切らなかったのではないのでしょうか。

（当院）



☆連絡先 浄敬寺

〒945-0051

柏崎市東本町 1 - 11 - 35

TEL:0257-22-2481

FAX:0257-22-2140

Mail :

住職 tomi814@kisnet.or.jp

当院 minipapa@kisnet.or.jp

晴香 jyoukyouji222481@gmail.com

8月13日  
午前6時から



（晴香）

### ☆編集を終えて：

例年ならば年末法話会が年内最後の行事となるのですが、年末公開講演会の後に、二〇二五年の一年をかけて行われた十組の真宗講座の「歩み出しの会」、二十日には「浄敬寺推進員の集い」、最後に「おてらヨガ」と、何かと「集う」機会が多く、新型コロナウイルスの流行と共に、「集う」行事が一気に休止となったことが随分昔のことです。感じられた年末でした。

仏教の三つの宝の一つが、僧（サンガ：仏の教えを聞く集い）ですが、他者の中に生き生きと存在している言葉や感覚に出会うことは、自分一人に閉じ籠りがちな私を開く貴重な縁であつて、仏教の話を聞くことを縁として集うことのできる場の有り難さを感じます。庫裡改修工事を終えて二度目の冬を迎えています。襖を外して広く使っても暖房効率よく、季節問わず皆様から活用していただけることを実感しています。